

絆（きずな）

東日本大震災で復興に向けて日本の人は全国民のつながり力で支援しようと呼びかけています。世界中の多くの人もまた世界中の人に呼びかけて支援の輪が広がっています。

「がんばれ日本」。被害にあわれた人たちの事を思えば、支援しないわけには行かないと思います。

そして言われるのが「絆（きずな）」だったりします。

国民一人ひとりが被災地の方々一人ひとりとつながっていることを表しているのだと思います。

世界中から善意の支援をしてくれている人たちも「つながりや絆」を実行し、それぞれの国や活動範囲で広報してくれていると思います。

個人としての社会とのつながり力

さて東日本大震災を離れて、私たちは個人的な問題として誰と絆を結んでいるでしょうか。或いはどのような人たちと絆を結んでいるでしょうか。

幼児虐待死のような悲惨な事件が起こると地域住民の間でのつながりのなさ、支援のなさ、絆のなさが問題視されます。

そのような事件は重大問題ですが、実は絆のなさがそんなに悲惨な事件として現れるのはまれで、それ以上に日常的な場面で、かつてほどに絆がなくなっていることが指摘されています。

つまり地域住民間のつながりが希薄になってきているのです。

その結果、地域が大人しくなり、沈滞してきています。

さてもう一度私たち自身について考えてみたいと思います。

私たちは 別にたくさんの人と絆を結んでいなくてもよいのですが。

本当に心の通じる人、たった一人と絆ができていたら、孤独感もなくなり、安心できます。

誰でも、なんでも話ができる友だちを作りたいものです。

私は「大きな変革」で心を開くことができて友達もできました。

